

打撃戦計23点 会津北嶺制す

会津北嶺 12-11 福島成蹊

タイブ레이크となった十回表、勝利を大きく引き寄せるこの回チーム4点目の打点を挙げた会津北嶺の徳田竜太(2年)は「絶対に一本打ってやろうという思いだった」と振り返る。見事に勝利につながり、仲間と喜び合った。

支部大会で右ふくらはぎを痛め一時期戦列を離れていた。4番に復帰して臨んだ。「最近打てていなかったが、期待に応えたいという思いがあった」と語った。

降雨による継続試合となり、この日は1点を追う展開から試合が再開された。チームは不安の中で試合に臨んだが、勝利に向けた気持ちで一つになった。打席に入る際にチームメイトからの言葉が力になったという徳田は「4番の仕事ができた」と力を込めた。

七回にリードを奪う適時打を放った福島成蹊の菅野晃輝(2年)は「つなぐ打撃を心がけた。大量失点を許さない守備力を身に付けたい。」



【会津北嶺—福島成蹊】延長タイブ레이크の激戦を制し、喜びを爆発させる会津北嶺ナイン＝あいづ球場